

小出裕章氏（京都大学原子炉実験所）にお会いして、いろいろ聞いてきました。
（2011年6月27日月曜日午後5時15分）

質問（Q）の1から20までは本誌読者や編集メンバーなどから寄せられた質問とインタビュー担当者（坂口、宮前）が作りました。

本誌インタビューのあとは、高崎憲治さん（「語らいの場」主宰）が種々質問なさいました（午後6時5分～同25分）。その中から関西電力の節電呼びかけに関する小出さんのお考えを文末に反映させています。

Q1と**Q2**は、農業に携わる人からの質問です。土壌の汚染が最も心配になっています。

.....
Q1：今でも福島原発から大気中に大量の放射性物質が放出されているのでしょうか。それとも大気中への放出は大体抑えられているが、爆発の際に放出された物質がスモッグのように原発周辺を漂っていて、それが流れてきているのでしょうか。

降り続けているとすれば、それは福島原発から毎日放出されているものなのか、またはスモッグのように漂っているものなのか？

それとも新たな放射性物質はあまり降ってきていないが、セシウムなど半減期の長い物質が多く堆積しているため、放射線量がなかなか下がらないのか？

福島原発からの大気中への放射性物質漏れの現状と今後の予測によって除染のタイミングを考えたいので、小出さんのご意見をお願いいたします。

小出さん：福島原子力発電所から放射性物質が大量に放出されたのは3月11日から20日ぐらいまでの間です。それ以降はほとんどおさまっています。

（農地の）放射線量が下がらないのは、放射性物質がすでに大地を汚しているからです。その線量が下がらないのは汚染をしている犯人が、ヨウ素ではなくてセシウムだからです。これからはもう下がりません

除染のタイミングは今です。

ただし、もしまた福島の原子力発電所が再度爆発して、大量の放射性物質を撒き散らすようになれば、再度、飛んでくる可能性はあり、また除染をしなければならなくなります。そういう再度の爆発がないことを期待して、まずは今、除染することが必要だと思います。

ただし、除染はできない、と私は思っています。

坂口：できない、というのは物理的に不可能だということですか？

小出さん：はい。除染というのは農地の表土を剥ぎ取るというのが唯一の方法だと私は思っているのですが、農地にとって表土は命です。それを剥ぎ取るようなことをしては、農地は、存続できないというか、大幅に地力が落ちてしまいますので、多分、（除染は）できないと思います。

Q 2：福島原発から大気中に放出された放射性物質の種類について。ヨウ素とセシウム以外の物質で到達している可能性のあるものがあれば教えてください。（プルトニウムはほかの物質に比べて重たいので遠くまでは広がらないと説明されていますが、本当でしょうか。）

放射性物質の種類についてどのように考えればいいのか、アドバイスをいただけると幸いです。

小出さん：可能性のあるというものでは200種類ほどあると思います。ただし、心配しなければいけないのは、今からはセシウムです。

プルトニウムは多分、問題になりません。ストロンチウムが問題になるかもしれないかもしれませんが、現在の福島の原子力発電所の事故の状況がこれ以上悪くならなければ、（放射性物質でその影響を考える上で）一番大切なのはセシウムです。

.....

以下の質問は、（ ）内に参考までに職業など質問者の立場を入れました。

質問の答えに該当すると思われる小出さんの発言を、他のインタビューや講演要旨で見つけた項目も中には含まれています。小出さんご自身にとっては繰り返しの質問になり、ご迷惑かとも考えましたが、本誌読者のために、小出さんにもう一度お答えいただきました。

Q 3（医師）：広島、長崎、第五福竜丸と被曝を受けてきた日本人が、なぜこんなにも原発を作ること許してきたのでしょうか？

そして、東電福島第一の事故の後でもなお、原発は必要だと考える日本人が多いというのは、なぜなのでしょう？

ドイツでの反原発のデモなどを見るとその違いにため息が出ます（戦争責任の取り方でもそうですが）。このような日本人の態度は国民性で片付けられるのでしょうか？ 小出さんはどうお考えですか？

小出さん：（苦笑しながら）私もそう思います。なぜなんだか、わかりません。ほんとにあきれたことだと思います。

Q 4（坂口ほか）：朝日新聞の科学部記者をはじめとする報道機関とその関係者は、かつて、原発の安全性を人々に信じさせ、原発を増やす誘導をしたと聞いています。インターネットが普及した現在、一般の人々もある程度の情報収集は可能です。しかし、玉石混交の情報がある中で、結論を国や権威者に頼りがちなところは、相変わらずです。

小出さん：はい、そう思います。

今、報道機関がもたらす情報は、それなりに信頼してもいいのでしょうか？ 操作（知らしむべからず）されていると頭から疑ったほうがいいのでしょうか？（薬害隠しの歴史に学ぶなら、相変わらず情報操作だろうと思ってしまいます）情報操作するとしたら、原子力のどういう分野（出来事）がしやすいのでしょうか？ 操作しようにもどうにもウソがつけられない分野、市民が見破る方法はあるのでしょうか？

小出さん：（しばし沈黙）むずかしいですね。でも、情報操作は・・・、山ほどできます。

例えば、一番大切というか、わかりやすいので言えば、日本の政府は、もし事故が起きたときは、放射性物質が周辺の住民を被爆させるわけですから、原子力発電所から放射性物質が放出された直後から、時々刻々、どっちの方向に流れていくかということ、スピーディという計算コードを使って計算して、それで事故防災をしようと言ってきた、のですよね。

ところが、事故が起きた途端に、そのスピーディの情報を隠してしまった。

坂口：その情報がむしろ外国から来たのですかね？

小出さん：はい、外国のほうはドイツでもどこでも、時々刻々、放射能がどの方向へ流れているか公表しているのに、日本の政府だけは隠してしまって、一切口をつぐんでしまった。

それも情報操作のひとつだと思いますが、そのために、子どもたちも含めて、たくさんのヨウ素を、みんな被爆をしてしまって、本来ならヨード剤を与えなくてはならないのに、だれもヨード剤を与えられないまま被爆をしてしまった、ということがありました。

原子炉の中がどういう状態になっているかということを知るためには、原子炉内の水位であるとか圧力であるとか、そういう細かなデータが必要だったんですけれども、政府は一切それを出さないまま口をつぐんできた、というのもありました。

坂口：政府ということもあると思いますが、そもそも東電が国に（データなどを）示さないということもあるのではないのでしょうか？

小出さん：それはどちらかわかりません。両方だと思いますけど。

おまけに、東京電力自身も、今現在も事故の実態を把握できていないという、それほど困難な事故なんだ、ということもあると思います。

いろんな情報そのものを知りえないということもあるし、知った上で東電が隠した、知った上で国が隠した、さまざまだと思います。

操作しようにもウソがつけられない分野というのは、事故が起こることです。当たり前のことです。彼らはずっとウソをつき続けてきたわけで、そんなウソに騙されてきた。

坂口：事故が起きたこと自体が、今までウソをついてきたことの証明ということですね？

小出さん：そうです。それなのにウソをつかれて、日本人はそのウソを信じてきた。原子力発電だけは安全だというふうに、ほとんどの日本人は多分信じてきた。それは政府と東電を含めた電力会社、大企業が原子力は安全ですというウソを垂れ流してきたからです。

でも、騙された人にも責任があると私は思っていますので、みなさんもよく考えてほしいと思っています。

坂口：「騙されたものの責任」という言葉を奈良で行われた講演で聞いて、非常に、印象に残っています。

小出さん：ありがとうございます。

Q 5（医師）：日本は世界一の医療被曝国です（例：100万人あたりのCTの数は世界一、英国の約12倍）。そして、被曝の被害を矮小化しようとする医師たちもいます。

医療に携わる人間に言いたいこと、あるいは医学教育に要望なさいたいことはありますか？

小出さん：あります。被曝は必ず危険だということを認識してほしい。便利だから使いたいと思うでしょうけど、その裏にはデメリットもあるということを認識した上で放射線は使ってほしいです。

私はお医者さんに（講演で）よんでもらうときには必ず言います。医者は使いすぎだ、注意をして使ってください、と。

Q 6（医学生）：放射性物質は医療など限定して有益な面はあると思うのですが、エネルギー源としての原子力は100%不要なものなののでしょうか？

小出さん：そうです。

Q 7（医師）：浜岡原発の停止に関しては、在日米軍の安全を考えてのアメリカ政府の要請に基づくという噂があります。米軍基地でいっぱい沖縄には原発がないこともそのことを裏付けているのでは？と思います。

お考えをお聞かせください。

小出さん：わかりません、ありうるかもしれないし（苦笑）。私にはわかりません。

Q 8（坂口）：小出さんは、原発を即時停止しても、ほかのエネルギーがあるから大丈夫だとおっしゃっています。数字の上ではそうかもしれませんが、現実には、原発を停止したそのときに、すぐに他のエネルギーの稼動が可能なのでしょうか？

例えば火力発電の場合、石炭をまずは調達することから始めなくてはならないのでは？

小出さん：そうです、おっしゃるとおりです。（原発停止から他の発電の体制が整うまで）タイムラグはあるかもしれませんが。石油でもいい、石炭でもいい、天然ガスでもいい。持ってこなくてははいけない。

坂口：それは1か月とか2か月とか？

小出さん：わかりません。しかし、石油の備蓄はあると思いますので、今年の夏を乗り切るといふだけならば、私は問題ないと思います。いずれにしても坂口さんがここに書かれていること（石炭の調達など）はやらなければならないと思います。

Q 9（事務）：日本が火力発電を増やすと、石炭の国際価格が上がってしまう、ということはないでしょうか？

小出さん：上がるでしょう、それがどうした？ それだけのことです。

坂口：価格が上がることのリスクと原発のリスクとですね？

小出さん：ちゃんと比べてみたらいい。

坂口：比べた場合に、小出さんとしては、そんなに言うほど石炭は高くない、トータルとしてはまだ、ということですね？

小出さん：みなさん、どう思います？ 今、福島で起きている悲劇をちゃんと補償しようとしたらいったい、いくらかかるか。石炭の値段が上がるくらいの話しかどうか、考えてみてください。日本と言う国家が倒産しても賸いきれないような額です。

Q 10（坂口ほか）：火力発電や水力発電で賄えるとしても、ほかのエネルギー源としては何が、ありふれた言い方ですが、地球に優しく有望とお考えでしょう？

小出さん：わかりません。でも、とりあえずは火力と水力でやるしか、今はありません。私は、原発は即刻やめろと言っていますので、即刻やめる。即刻やめたところで火力と水力で足りる。当面それで乗り切って、これからのことはそれから考えれば良いと思っています。

何があるか、と問われれば、あるのは結局は、太陽しかありません。

原子力なんてのはウランを燃やすわけだけども、ウランは地球上にほとんどありませんので、結局すぐだめになる。化石燃料も、石油、石炭、天然ガス、それも、多分数百年しかもちません。ですから、地下から掘ってきてそれを使おうとする限りは、どっちにしてもだめになっちゃうので、掘って、使って、無くなるという、それ再生不能資源というのですけど、そんなものに頼る時代は、長く続きません。ですから、再生可能、つまり使っても、使っても、尽きない、というものに頼るしかない。

坂口：テレビで知ったのですが、ニュージーランドは地熱で電力を賅っていて、地熱は使っても、使ってもいい。

小出さん：ああ、地熱はいいですね。しかし、地熱でできる量は知れています。

坂口：ニュージーランドの人口だから（賅えるということ）？

小出さん：そうです。地熱でできる量は知れている。日本で、地熱でやろうとしたら（人口の多さなど）到底足りない。しかし、地熱を使うというのはいいと思います。

ただし、地熱は環境に優しいというわけではありません。地下からの熱水ですので、いろいろな有害物質が入ってきますので、優しくはない。でも、原子力よりは遥かにいいと私は思います。

Q11（事務）：大気汚染でCO₂が目の敵にされますが、原子力発電を普及させるための布石だったのでしょうか？

小出さん：（苦笑しながら）はい、私はそう思います。

Q 1 2（坂口）：小出さんは、CO₂が大気汚染の元凶とすることに疑問をお持ちと聞いていますが、原子力と比較して、原子力の怖さに比べれば、火力がまだまし、ということでしょうか？

小出さん：まだまし、ではなくて、遥かにましです。

Q 1 3（坂口）：CO₂が大気汚染や地球温暖化の原因だという一般的な認識は根強いものがあると思います。脱原発のためには、火力はそんなに悪者ではないということをシンプルに伝えることが必要だと思うのですが、どんな方法があるでしょうか？

小出さん：わかりませんが、事実を伝えればいいのだと私は思いますが。

CO₂はもともと地球にぜったい必要なものじゃないですか。それがなかったら地球は死の星になってしまうわけで。それを悪者扱いにしておいて、原子力、核生成物については口をとぎす、という、もともと間違えたことをしている。そしてCO₂だけを悪者にして、それが地球温暖化の原因だとするわけですよ。でも、CO₂が大気中に激増したのは1946年からです。

坂口：1946年、戦後ですね。

小出さん：そうです。戦争が終わって、要するに、これからガンガン、エネルギーとして石炭を使うんだぞ、となってから、大気中のCO₂は激増している。それまでも増えてはいますが、激増したのは、1946年になってからです。

では、地球の温暖化というのは、いつからなのか、というと1800年。その頃から温暖化というのは起きている。でもこれは人為的なものではないです。地球があつたかくなったり、寒くなったりを繰り返している、そういう星なわけです。

坂口：地球自体が、ですね。

小出さん：中世なんて、ものすごくあつたかい時代があつた。今から遡って10万年前くらいを考えれば、氷河期なんてあるし。過去1000年くらいを見れば、人間の歴史の中世という時代から地球はずっと寒冷化してきている。それが1800年くらいから上昇に転じている。

そういう地球のいろんなサイクルの中のひとつとして、地球はもう 200 年くらい前から温暖化の時期に入っている。二酸化炭素の激増は 1946 年からです。せいぜい 50、60 年かそこらなわけで、二酸化炭素なんてぜんぜん関係ないくらい温暖化はそれ以前からあった。

ただ、二酸化炭素が温暖化に拍車をかけていることはあるかもしれない、と私は思っているけれども、二酸化炭素だけが悪者だなんていうことは、まるで間違っていると思っています。

そういう事実を人々に伝えればいいんです。

Q 1 4（主婦）：福島原発事故以前は、農産物などの放射能は全く検出されない、のが当たり前だったのでしょか？

小出さん：いいえ。前から汚染は検出されてきました。それはなぜかと言えば、人類が 1950 年代、60 年代に、大気圏内核実験をやったからです。地球上くまなく放射能で汚れています。

Q 1 5（関東在住の主婦）：原発を認めてしまった大人の責任として、放射能に汚染された農産物などを大人は食する責任がある、と小出さんは話しておられますが、同じ家族の中で子どもがいる場合、子どもを守るためには別々の食材ということになるのでしょうか？

未成年がいる家庭は食材を選んでもいいんじゃないかな、と思うのですが。（インタビューに同席のたかさきけんじさんは、「小出さんはこんなきついことは言っていない。もし言ったとしたら、皮肉のつもりなのでは」と）

小出さん：私は心底、大人は食べるべきだと思っています。心底です。皮肉で言ったんでも、冗談で言ったんでもありません。

坂口：心底ですね、皮肉でもなんでもなく。奈良での講演で、小出さんが（放射線被曝で受ける危険の年齢依存性を）グラフを示しながら、「子どもは守らなくてはならないが、大人は責任として食べるべき」とおっしゃっていたので、皮肉でもなんでもないのだろうと、私は受け止めたのですが。

小出さん：はい。

たかさきさん：では、その限度ってありますか？

小出さん：ありません。

たかさきさん：汚染の数値に関係なく、ですか？

小出さん：数値は関係ありますよ。私はこんな話、（奈良の講演で）みなさんにしたじらうか。

汚染をすべて調べる。すべて調べて、汚染の高いものから低いものまで、ずうっとリストを作る。そして、一番汚染の低いものは子ども用に回す。少し汚染したものは、もう少し年上の者に回す。そういうようにずうっと分けていって。

映画に「18禁」ってありますよね。18歳以下は観てはいけない、という。そういうように、ずうっと分類する。この食品は「60禁」、つまり60歳以下は危ない。そういう分類をして、こと細かく分類して、年寄りが汚染の強い物を食べる。

坂口：現実に、家族内に10歳と大人がいて、例えばほうれん草を茹でて食べるときは？

小出さん：そういうのはできないですね。10歳以下の子どもと「一緒のもの」を食べる時は「10禁」のものをみなさんで食べる。

坂口：福島農産物をランク分けするとして、国がその気になればできることですか、県レベルでもできますか？

小出さん：できるし、私がこういう発言をすると、汚染されたものを積極的に自分たちが引き受けるなどということをする、東京電力を免罪することになる、汚染されたものは東京電力が買い取るべきだ、とそういう意見の方がたくさんいるんです。

そういう考え方もあると思いますが、私は、東京電力への責任の取り方は、きちんと調べて、公表することだということが東京電力のすることだと思っています。東京電力を免罪するわけではない。もっと大変なことを彼らにはやらせるのです。今は、ぜんぜん出来ていないですよ。むしろ隠そうとしているわけで。

基準を決めて、基準以上のものは出荷停止にする。基準以下のものは安全だ、と国も東電もやっているわけで、それは正しくない、と私は思う。

坂口：私たち（宮前さんと坂口）の世代は、物心ついたら原発はあったんです。ただし、ほんとに安全なものだったら大阪に原発を持ってきていいものを、そうじゃないのは、何か起きたときにリスクがあるからだろう、安全というのはおかしいよねえ、くらいには考えていた。

でも、成人してから、原発に積極的に反対してきたわけではないし、選挙で1票を投じるときにそのことを考えたわけでもない。傍観者だった、それは沈黙、暗黙のうちに容認したことになるから、責任がある、と理解したのです。

小出さん：そうです。

坂口：だとしたら、自分たちのレベルでの責任の取り方として、（汚染された）農産物を食べるというのは、なるほどなあ、と私は解釈したのです。

今、小出さんがおっしゃったみたいに、東電は東電でやるべきことをさせて、せめて私たちが農産物を食べることで、福島の人たちが作った農産物が廃棄されることのないように、それが庶民のできることなのだろうと考えたのですが。そういう受け止め方でいいのでしょうか？

小出さん：そうです、おっしゃるとおりです。

私のやりたいことは、一次産業を崩壊させない、こと。そして、子どもを守る、ということです。なぜなら、子どもは、この、今の原子力に対して、責任が全くない世代だから、その彼らに責任を強いてはならない。その二つだけなんです。

その二つ、一次産業を崩壊させないため、子どもたちを守るために、どういう手立てがあるのかと考えた場合に、私には、今、申し上げたような方策しか思いつかない。

他の提案があるのなら、もちろんしていただいたら結構だけれども、福島の農産物を食べないという選択をするなら、どうやっても、一次産業は崩壊しません。私は、それはとらない。

私は責任をとらせたい、と思っている。一人ひとりが責任をとるべきだと言っている。

例えば、学校給食はきれいなものにしなければいけない。しかし、その代わりに、東京電力の社員食堂は圧倒的に汚染されたものでいい。国会の食堂も圧倒

的に汚染されたものでいい。ですから、「50 禁」「60 禁」という責任の取り方と別に、そういう責任の取らせ方をしてもいい。

Q 1 6（工学部卒の男性）：最終処分施設である「オンカロ」（フィンランド）をどのように考えられますか？ これに代わる方法はないのでしょうか？

小出さん：どこにしても、埋めてはいけません。埋めるということは、埋めてしまって、もし、そのことが間違いだと気が付いたときには取り返しがつきません。埋めるということは、完璧にその場所を隔離する、ということです。しっかりと封じ込めなければいけない。それが、間違いだとわかったときに、しっかりと封じ込めているのだから掘り出すことができない。

坂口：オンカロはこれを開けてはいけない、と札を付けるそうですが。

小出さん：標識を付けることになっているけれども、それが何年もつんですか？日本で、1000 年とか昔のものを掘り起こして、いろいろ調べて「ああ、ここに昔の人が住んでいたんだ」とかがわかるわけでしょう。

このゴミは、10 万年、100 万年、とそんなゴミであって、標識なんて無意味ですよ。

坂口：これに代わるものは？

小出さん：ない。ないからこそ、こういうゴミを生んではならない、と私は言っているわけです。ゴミの始末の方法がわかるようなものなら、やってもいいと思います。

坂口：今すぐに、ここで原発をやめても（そのゴミ処理は？）

小出さん：私にはやり方がわからないのです。何とかしなければいけない、ということは確実にそうなのですが、どうしたらいいか私にはわからないし、だれも分かる人はいないのです。

Q 1 7（宮前）：一度に多数の人間を殺傷できる原子力をエネルギーに用いること自体、大変危険なことだと思うのですが、原子力発電が運用実行になる際、危険視する声は（世界的に）大きくなかったのでしょうか？

小出さん：はい、大きくありませんでした。だから、こうなったんです。原爆という形で核エネルギーが人類の前に姿を現して、それを見た人間は、一方で恐れおののいたけれども、それを使ったら役に立つ、というふうに思い込んだんですね。私もそうなんですけれど。

人間のために役に立つ、と思い込んでしまった。後にどんなゴミが残るとか、事故になったら困るとか、その時には気づかなかったというか、目がくらんでいたのでしょうかね。

Q 1 8（坂口）：欧米では 1970 年代に入って、原発の利益よりもリスクの大きいことに気づき、30 年間にわたって 1 基も新設がないそうですが、そういうことは日本国内に報道はなされてきたのでしょうか？ 報道規制があったのでしょうか？

小出さん：報道されてきたかと言えば、もちろん、私はずっと前から知っていたし、私はそれをものにも書いてきた。けれども、マスメディアが取り上げなかった。事実は事実としてここに（質問）に書かれていたようなことがあったし、私は発信したつもりだけれども、それをマスメディアは黙殺した、ということなんです。

Q 1 9（坂口）：NPO 医薬ビジランスセンターは一貫して、たとえ国が承認した薬剤であっても、それを信用することはできない、という姿勢で情報を分析、吟味してきています。国や専門家はちっとも本心から反省なんてしていません。

にもかかわらず、人々が懲りることなく国や権威や報道を信じ、薬害が繰り返されることに対して、私、坂口ですが、個人的には「なぜ、国や専門家を信じてしまえるのだろうか？ 歴史に学ばないのだろうか？」と不思議な気持ちになります。

小出さんは、さらにとんでもなく大きい原子力というものを相手に 40 年近く、しつこくそのリスクを訴えてこられて、無力感にとらわれたことはございませんか？

小出さん：いつも無力感にとらわれました。

坂口：ました、というのは過去形ですか？

小出さん：ええ、今はさらに感じています。

私は原子力というのは、いつか事故を起こすかもしれないと言ってきましたし、なんとか、事故が起こる前に、原子力を止めたいと思ってきた。でも、止められないで、事故は起きてしまったわけです。

私が原子力に反対を始めたときは、日本に原子力発電所は3基しかなかったのに、それが54基も作られてしまったわけで、常に私は自分が非力であることを思いながら、無力感にとらわれてきました。

それでも、何とか廃絶させたいと思って声を上げてきたわけですが、3月11日に、とうとう起きてしまった、わけですね。私としては、ずうっと、負け続けてきたわけだけども、このあいだ（3月11日）決定的な敗北をしたわけですね。

何とか防ぎたいと思ってきたことが、防げなくて起きてしまったわけですから、完璧に無力感を持ちました。

Q20（坂口ほか）：将来的に、何を、どうすれば、日本の科学の世界（村）に、ベネフィットとリスクをはかって「合理的科学的判断」をする精神が根付くようになるとお考えでしょうか？

小出さん：わかりません、（あったら）教えてください。

坂口：最後に、ここへ来る前に当センターの浜さん、内科医ですが、預かってきたものがあります。7月9日午後7時30分からNHKが原発に関するスペシャル番組をするそうで、視聴者からアンケートを募っていて、浜さんが書いたものです。小出さんに是非チェックしていただきたい、と。

NHKスペシャル(7月9日午後7時30分)でアンケートを受け付けています。原子力発電所に関して、

1. 増やすべきだ
2. 現状を維持すべきだ
3. 減らすべきだ
4. すべてを廃止すべきだ
5. その他

上記の項目で、4. を選び、その理由を次のように述べました(400字以内)。

2011年6月28日

浜 六郎（内科医）

1. 同じエネルギーを得るのに、原発ほど毒性の強い汚染物質（死の灰）を出すエネルギー源はない。他のエネルギー源の方が、はるかに汚染は少ない。
2. 人が用いることができる科学技術とは、それを使用することによってトラブルが生じた際には、その被害は個人や、当事者の範囲に、かつ短期に留まるものでなければならない。もしも、広範囲・長期に被害が及びうる場合には、広範囲・長期にならないように、人がコントロールできるものでなければならない。
3. しかし、原発にトラブルが起きた場合には、その被害は想像を絶する広範囲かつ長期におよび、人がそれをコントロールすることが不可能な事態になる。
4. そのことは、ずっと以前から分かっていたが、今回の福島事故によって、さらに鮮明となった。
5. 他のエネルギー源により、電力は十分にまかないうる。

小出さん：いいですね。結構です。このことを書いていただけるなら十分です。

たかさきさん：電力事業を今までのような寡占にせず、門戸を開いていかなく
ては。関電が節電をいうなんてとんでもないと僕は思うんですが。

小出さん：そうです。もっともっと柔軟にしてやっていかななくてはならない。
しかし現時点では（近畿は）関電の独占なんです。独占の上に胡坐をかいて利
潤を生んできたわけですね。でも、関電は、いつ、いかなるときも電力を供給
するというこのもとに、独占を認められたんです。

ですから、関電は、どんなことがあっても電力を供給しなくてはいけない。
原発が止まろうと、関電の責任で地域に供給しなくてはいけない。15%節電し
てくれ、なんて関電には言う権利もない。（市民は関電に対して）ちゃんと責
任をとれ、と言えいいだけで。他から盗んできてでも供給する責任があるん
です。

私は自分のできることをやっていきます。人に何をしたらいい、というアド
バイスはできません。

坂口：ほんとお忙しい中、お答えいただいて、ありがとうございました。

取材を終えて：インタビューの合間に、5回電話がありました。いずれも取材などの申込のようでした。ともかく超多忙。月曜日から木曜日は午後7時に自宅にいて、毎日放送のラジオ番組「たねまきジャーナル」に電話出演しておられます。私自身はまだ60歳に届いていませんが、「60禁」と言わず、もう今さらこだわらず、被災地の農産物や畜産物、海産物などを食べますし、大人の責任だという小出さんの考えに非常に共感を覚えています。